



VJU

Vietnam Japan University

VNU since 1906

【日越大学メールマガジン Vol.29, 2019年10月/11月合併号】

日越大学は、日本とベトナムの両政府により、両国の友好と結束の象徴として新たに設立された大学で、2016年9月にベトナムハノイで開校しました。

現在、修士課程に3期生79名と、9月から第4期生91名（うち14名の外国人学生：日本人1名、ミャンマー人5名、ラオス人1名、フィリピン人1名、スリランカ人1名、ロシア人1名、ナイジェリア人3名、コンゴ人1名）【11/25時点】の、計170名の学生が、共通科目の日本語と英語等の習得に加え、地域研究(MAS)、企業管理(MBA)、公共政策(MPP)、ナノテクノロジー(MNT)、環境工学(MEE)、社会基盤(MIE)、気候変動・開発(MCCD)、グローバル・リーダーシップ(MGL)の各専攻プログラムを勉強しています。



【今月のトピックス】

1 日越大学ニュース

1. 第3期インターンシップ生来日記念交流会・企業個別面談会の開催（11月5日／東京）

インターンシップのため訪日中の学生67名は、日本の産官学等関係者と、自身が取り組んでいる研究内容をはじめ滞在中に体験したことなどを話題に、活発な交流を行いました。

交流会には、岡田直樹官房副長官、ヴー・ホン・ナム駐日ベトナム特命全権大使、武部新日越友好議員連盟事務局次長、武部勤日越友好議員連盟特別顧問等の方々にご臨席頂き、日越大学学生を代表して、MCCDプログラムのチャン・フエン・チーさんが、また卒業生を代表して、グエン・マイン・ハオさんが、それぞれお越し頂いた方々に挨拶をおこないました。

企業個別面談会では、学生達が各企業のブースを訪れ、より深くそれぞれの企業の業務内容について学び、日本での就職について検討する絶好の機会になりました。企業からの参加者は、「ベトナムには若くて力強い人材が多いという印象を受けた。今後、ベトナム進出を考えているので、このような機会でベトナム人学生と直接話ができるのは貴重でした。」と、ベトナムでの高度人材への期待を寄せていました。



(第3期インターンシップ生来日記念交流会)

2. JASSO 日本留学フェアへの参加

日本学生支援機構（JASSO）主催の日本留学フェアに、今年も日越大学が参加しました。

日本留学フェアは、10月5日（土）にホーチミン市、6日（日）にハノイ市でそれぞれ開催され、ハノイで開催された留学フェアの開会式では、日越大学の Oanh 副学長が来賓としてテープカット及びオープニング・スピーチを飾り、日越両国が教育面でも連携できる点などを説明しました。

JASSO の発表によれば、ハノイでの全体の参加者数は 1,921 名で過去最多になったとのことで、日越大学のブースにも、来年設置を目指す学部課程への希望者を含めて多くの学生が訪れました。



(Oanh 副学長によるスピーチ)



(個別説明会の様子)

3. ISS セミナーの開催

(1) 狩野光伸氏（外務大臣次席科学技術顧問）による講演

11月14日（木）11時より、狩野光伸外務大臣次席科学技術顧問による「Science, Technology and Innovation in Japan - From Perspectives of Life Science and Science and Technology Diplomacy -」をテーマとした講演が、第1回 ISS セミナーとして開催され、VJU の学生および教職員、JICA 専門家等、77名が熱心に聞き入りました。

日本とベトナムの科学技術の連携強化が創造する価値について、医師でもある狩野氏ご自身の研究も交えて、興味深いお話をいただきました。学生からも近年ベトナムの社会や健康問題な

どに関連した質問が相次ぎ、一つ一つに丁寧にお答え頂きました。

今回、在ベトナム日本大使館のご厚意により、学生・教職員にこのような貴重な機会をいただきました。今後とも、日越大学で学んでいるからこそ得られる学びの機会をより多く提供できるよう、関係機関との連携を強めて行きたいと思っております。



(狩野光伸外務大臣次席科学技術顧問による講演の様子)

(2) Prof. Dr. Sander Van der Leeuw による講演

11月21日（木）にVJUにおいて、アリゾナ州立大学サステナビリティ学部学部長の Sander Van der Leeuw 教授による「Solutions Cause Problems: Lessons from Water Management in the Rhine Delta, the Netherlands」をテーマとした第2回 ISS セミナーが行われ、環境工学プログラム(MEE)、気候変動・開発プログラム(MCCD)の学生を中心にVJUの教職員、JICA 専門家等、約30名が参加しました。

ラインデルタの事例をもとに、Solutions（解決策）が思いもかけない問題を引き起こすことがあることが紹介され、先進国の Solutions が必ずしも良いわけではなく、それぞれの国にあったそれぞれの方法で対応していくことの必要性について講演頂きました。



(Prof. Dr. Sander Van der Leeuw による講演)

4. さくらサイエンス in 水俣プログラム

熊本県にある水俣環境アカデミアが主催した「さくらサイエンスプラン」水俣研修に、本学 MBA プログラムの Tran Thi Bich Hanh 講師と、学生2名が参加しました。

さくらサイエンスプランは、科学技術振興機構（JST）が実施する、日本とアジアの青少年交流事業です。10月24日から30日までの期間中、日越大学からを含め、ベトナム、台湾、タイ、中国、

シンガポールからの参加者 14 名が、水俣市内にある環境関連施設や九州大学などを訪問し、研究者から最新の研究成果についての講義を受けるとともに、地元の高校生との交流やホームステイ体験、ベトナム文化の紹介など、たいへん充実した活動を行いました。



(Tran Thi Bich Hanh 講師によるプレゼンテーション)

5. 民間連携／大学間交流／来訪

(1) 鈴木秀生外務省国際協力局局长

11 月 7 日に鈴木秀生外務省国際協力局局长が日越大学を訪問されました。

熊谷チーフアドバイザーから VJU の概要説明後、VJU 学生、教職員、JICA 専門家との懇談が和やかな雰囲気の中でおこなわれました。

鈴木局長からは、「日越大学の開学が実現し、本学を訪問することができ大変嬉しく思うと共に、このような素晴らしい大学に成長していることに対して、ベトナム政府、日越大学教職員の皆さん、JICA 専門家の皆さん、そして情熱と強い意志をもって本学で学んでいる学生に心から感謝の意を表したい。」とのお言葉を頂くと共に、「日越大学を真の知識と研究の中心となるように、ホアラックキャンパスの建設及び早期学部開設について、ベトナム政府と話し合う予定である。」との心強い応援を頂きました。

なお、鈴木局長の来学に先立ち、10 月 10 日に、鈴木滋外務省外務省国際協力局国別開発協力第一課長も本学を訪問されました。



(鈴木局長と懇談参加者)

(2) JENESYS プログラム

11月14日(木)に、21世紀東アジア青少年大交流計画（JENESYS プログラム）による、北海道教育大学と、幹事大学でもある横浜国立大学の学生15名を受け入れました。

JENESYS プログラムでは、訪問国の歴史・文化・産業等を総合的に学ぶと共に、日本のODAの援助現場を訪れることで日本の役割への理解を深め、派遣先の青少年と直接交流し、相互理解や友情等を深めることが期待されています。

15名の参加学生は、JICA ベトナム事務所を訪問した後で日越大学を訪問し、日越大学プロジェクトの概要について、常駐する専門家から説明を聞いた後、留学生を含む、本学の第4期生（修士1年次）との交流会を実施しました。交流方法やテーマをあえて指定せず、手探りながら英語でコミュニケーションを取ることで、日越学生双方にとって、有意義な、楽しい機会となりました。



(学生と日越大学学生との交流の様子)

(3) 法政大学

11月22日に法政大学の評議員、理事等7名が日越大学を表敬訪問されました。

古田学長による日越大学の紹介の後、MSA、MBA、MCCDの学生7名が加わり、修了後の就職希望等について日本語で懇談が行われました。

修了後日系企業への就職を希望する多くの学生に対し、大手企業の役員経験のある評議員の方々等より、日本の企業の現状や外国人雇用の課題が説明され、また、今後の学生達への期待と温かい励ましの言葉をいただきました。

法政大学からは公共政策分野での講義にご協力いただいているだけでなく、毎年、日越大学で職員インターンシップを行う等、既に太い絆がありますが、今回の訪問を通じて、日越大学をより身近に感じていただけたとのことで、更なる関係構築が期待されます。



(法政大学の皆さんと日越大学学生との懇談の様子)

(3) 神戸商工会議所ビジネスミッション

11月25日に伊藤紀美子神戸商工会議所副会頭を団長とする神戸商工会議所ビジネス交流ミッションの11名を日越大学にお迎えし、古田学長による日越大学およびベトナムの高等教育についての紹介や実験室を含む施設見学を行いました。

質疑応答では、修了生の就職先企業や業界の特徴、修了生が期待されている役割、日越大学が日本の企業側に期待すること等、多くの質問をいただき、ベトナムの人材および日越大学への関心と期待の高さが感じられました。

なお、今回は、R&D部門のTu副課長の事前調整により、当日の司会は神戸の大学院で学んだThuy先生が、また実験室の案内はMNTのTanh先生が主に担いました。

日本で博士号を取得した3名が、日本で学んだ経験と力を活かして全面的に対応し、日越大学の教職員の力量を示すよい機会となりました。



(神戸商工会議所ビジネスミッションの方々とVJU参加者)

(4) 滋賀県議員団

11月25日に滋賀県より県議会議員団(団長:生田邦夫議長)、県内企業等より24名が来学され、古田学長による日越大学の概要、教員専門家による研究内容、日本語教育プログラム、地域研究プログラムの取り組みについての紹介を行いました。

日越大学学生が入学してから専門分野の研究に忙しい毎日を過ごしながらも、初めて学ぶ日本語に奮闘している様子が紹介されました。

滋賀県では、今回の視察を受けて、今後ベトナム人材の受入れを積極的に進めていきたいとのことでした。



(古田学長から滋賀県議員団の皆さんに日越大学についてご説明をされました)

6. ベトナムでの幹事大学情報

➤ 茨城県水戸市で台風 19 号被災復興ボランティアへ参加

インターンシップ中の気候変動・開発プログラムの学生 20 名は、台風 19 号で被災した茨城県水戸市で復興ボランティアに参加し、この様子が一部メディアにも取り上げられました。

学生たちは「復興のための制度や技術が整備されていること、被災者が強い意志を持って団結して復興に取り組んでいることに心を打たれた。地球上で起こっている様々な問題にどう対応していくか、これからも研究に励んでいきたい。」と、抱負を語りました。

また、学生たちは、訪日前に学内で集めた義援金約 10 万円を持参し、被災地に寄付しました。

➤ 関連情報：

➤ 茨城県庁 HP：

https://www.pref.ibaraki.jp/seikatsukankyo/kokusai/koryu/20181127_hyokei.html

➤ 茨城大学ニュース：<https://www.ibaraki.ac.jp/news/2019/11/07010585.html>

2 第 3 期生インターンシップ報告

本年 9 月から、第 3 期生の日本でのインターンシップがおこなわれています。

そこで、今月号から各プログラムの日本でのインターンシップ報告をお伝えします。

今月は、環境工学プログラム、そして地域研究プログラム（ベトナム研究）からの報告をお伝えします。

【環境工学プログラム(MEE)】

日越大学環境工学修士課程プログラムの M2 学生が、約 2 か月に渡る本邦インターンシップを無事に終えて帰国致しました。

日本での研究活動のみならず企業研修や学生交流、一般的な生活を通じて得られた研修学生の率直な感想と将来設計に与えた影響などについて、東京大学、立命館大学に派遣された各 5 名の学生から 1 名ずつの報告をします。

本事業にご協力いただきました日本の幹事校、官公庁および日本企業の皆様に深く感謝申し上げます。

- (1) 東京大学におけるインターンシップ（2019年9月23日～11月21日）に参加した **Vu Thi My Hanh** さん（写真の右から2番目）からのレポート

The two-month internship at The University Of Tokyo (UoT), Japan is a decisive period for my current and future study career. It was my great pleasure to study at the Department of Urban Engineering of UoT, one of the most prestigious universities in the world. Thanks to the enthusiastic guidance from professors as well as advanced laboratory conditions, I was able to complete my experiments quickly and accurately.



The library system here allowed me to approach the up to date scientific papers. I also improved my presentation skills during lab meetings and got much useful advice from the multi-aspect viewpoints to adjust my research direction. Working with Japanese people trained me to be on time and organize my work effectively. Besides, I have also had chances to visit companies and research institutes such as TSS Tokyo Water Company, National Institute for Environmental Studies along with a memorable field trip to Sado Island in Nigata Prefecture. During these days, I got some new friends and expanded my international network relationship. These trips provided us with helpful information about opportunities for Ph.D. research or working in companies in Japan, thereby helping us shape our future goals after graduation.

Furthermore, this occasion is a time to experience the daily life and explore the amazing landscapes, culture, history, and people of Japan. It was different from short-term travel when I lived and worked as a resident. I felt interesting to communicate with local people in English and my limited Japanese as sometimes, body language was necessary to understand each other. However, I happily realized that my Japanese has been improved after two months. Returning from this internship, I have been better planning the way that I will go ahead with the valuable experience I have gained. My friends all admire me for having such a desirable training period, and I am very grateful to Vietnam Japan University for that great thing!

- (2) 立命館大学におけるインターンシップ（2019年9月19日～11月19日）に参加した **Pham Thi Kieu Chinh** さん（写真の右から2番目）からのレポート

I had a delightful journey in Japan for 2 months. During the time in Ritsumeikan University, I worked at modern laboratory which was well trained by Japanese professors. Especially, I had an opportunity to make new friend from Japan and four corner of the world whose being funny and kindness.



Two months are not so long previous of time but it is enough to accumulate a lot of experiences

and open the window.

When I visited company in Japan, I was so surprised in term of the professional process of working, large scale and warm hospitality welcome from director and all of staffs. So that, this internship has contributed to my passion for research and my desire to learn more after graduating Vietnam Japan University. I hope that soon I will officially become a PhD student at Ritsumeikan



University so that I can learn the most advanced Japanese technologies which to apply flexibly and appropriately in the Vietnamese environment.

【地域研究プログラム(MAS) ベトナム研究】

地域研究プログラムのベトナム研究3期生4名は、10月1日から11月4日までの約1カ月間、日本でのインターンシップに参加しました。日本に到着してすぐに大型台風に見舞われ、宿舎内で心細い思いもしたようです。しかしながら、その後の日本滞在中は、幹事校である東京大学を拠点としながら、各科目に係るフィールドトリップに参加し、日本での稲刈り体験をしたり、5社の企業様（FANCL様、祐幸計装様、イノアック・コーポレーション様、フューチャー・デザイン・ラボ様、ユニクロベトナム様）を訪問し、各社の企業精神や日本での働き方に触れる機会を得たりと、充実した時間を過ごすことができました。

他方で学生たちは、修士論文の研究活動にも励み、神田外語大学や昭和女子大学、または京都大学や大阪大学で、ベトナム研究専門の先生方と交流の時間をもったり、直接の指導を受けることもできました。期間終盤で実施した東京大学での修論進捗報告会では、先生方から高い評価を頂き、これからの本格的な修士論文執筆に役立てようと奮起しながら、帰国の途に着きました。

このインターンシップを通じて、学生たちは日本に対するイメージが変わったようです。単なる経済発展の視点でのみ日本を見るのではなく、多様な視点から日本社会や文化の仕組みを理解することで、改めてベトナムと比較し、双方の社会のサステナブルな関係のあり方を模索するヒントを得たことこそが、今回の最大の成果ではないでしょうか。彼らの今後の更なる成長を期待しています！



(東京大学駒場キャンパスで開催された日越研究双方の学生揃っての懇親会にて)

3 今後の主な予定、行事（予定）

- ◆ 12月5日 大武元国税庁長官来学
- ◆ 12月19日 富山県東南アジア貿易投資ミッション来学
- ◆ 1月23日～29日 ベトナムテト（旧正月）休暇
- ◆ 2月（予定） 第5回日越大学理事会開催
- ◆ 3月12日 富山県高等学校生徒海外派遣受入

4 人事往来

特記事項なし

5 日越大学からのお知らせ

- ☞ 日越大学は、テト休暇（ベトナム旧正月休暇）に伴い、2020年1月23日（木）～29日（水）の期間、大学は閉校となりますので、予めご了解ください。



【お問い合わせ先】

日越大学・日越大学修士課程設立プロジェクトメールマガジン編集委員会

Tel: +84 (0) 247-306-6001

E-mail: mail.magazine@vju.ac.vn

日越大学 HP <http://vju.vnu.edu.vn/>

日越大学 Facebook（ベトナム語） <https://www.facebook.com/vju.edu.vn/?fref=ts>

日越大学 Facebook（日本語） <https://www.facebook.com/jicavju/>

JICA HP <https://www.jica.go.jp/project/vietnam/040/index.html>

【メール配信停止・変更】

本メールマガジンの配信停止・宛先の変更・追加をご希望の方は、お手数ですが、日越大学・日越大学修士課程設立プロジェクトメールマガジン編集委員会 mail.magazine@vju.ac.vn、石田までご連絡頂ければ幸甚に存じます。